

|       |       |      |         |       |      |
|-------|-------|------|---------|-------|------|
| 指定校番号 | 30019 | 学級活動 | ○ 児童会活動 | クラブ活動 | 学校行事 |
|-------|-------|------|---------|-------|------|

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

|     |           |    |        |        |       |
|-----|-----------|----|--------|--------|-------|
| 学校名 | 尾道市立久保小学校 | 校長 | 村上 みどり | 生徒指導主事 | 内田 哲雄 |
|-----|-----------|----|--------|--------|-------|

**取組事例名** 『児童会活動』

**取組における育てたい資質・能力**

| 人間関係形成        |   | 社会参画  |   | 自己実現       |   |
|---------------|---|-------|---|------------|---|
| 「共感的な人間関係の形成」 | 1 | 「協調性」 | 3 | 「自己肯定感の育成」 | 2 |

**取組のねらい**『キーワード 自他を思いやる心の育成』

全児童が相手意識を持って学校生活を送ることができるようになるために、協力して諸問題を解決しようとする共感的な人間関係を育成する。

**取組の具体的内容**『キーワード つながり』

**よいこと運動**

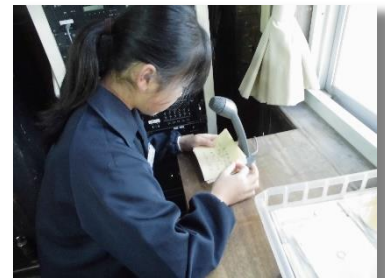
- 各学級に「よいことカード・よいことボックス」を設置し、児童が、友達のよいこと（されて嬉しかったことや助かったこと）を「よいことカード」に記入し、「よいことボックス」に投函する。
- 各月の最終週に児童会が「よいことボックス」を回収し、集計する。
- 集計したカードの中から、全校に知らせたい内容を選び、児童玄関に掲示する。さらに、各学年1枚ずつ、給食放送で紹介する。



よいことカード



児童玄関の掲示



児童会による放送の様子

**学級委員会**

○代表委員会

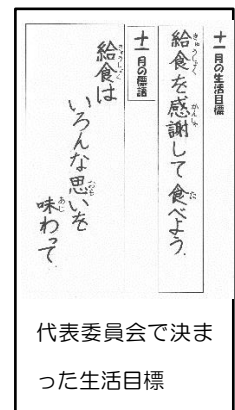
共感的な人間関係の育成をするとともに、児童の主体性、自主性を高めることを目指し、児童会の自治活動や各学年のクラスの話合い活動の充実及び活性化を図るために代表委員会を開く。

(各学年で話し合ってくる内容)

- 毎月の生活目標を守れたかの反省と次月の生活目標
- 学校生活の中でよかったと思うことや困っていること
- 児童会や他の学年にお願いしたいこと（緊急の場合は随時児童会に連絡する）

※事後の取組

- 児童会だよりを全教職員と各クラスに配布し、教室に掲示しておく。
- よかったことや気になっていること、困っていることは、全校集会で話し共有することで、課題に対する意識化を図る。
- 児童会から各クラスに連絡したり、啓発ポスターなどを掲示したりして問題解決をしていく。



## 取組の課題・創意工夫『キーワード 個人差・学級差』

### よいこと運動

△積極的に「よいことカード」に記入する児童と、関心のない児童とに分かれている。(学級差)

⇒児童が「よいこと運動」へ意識を向けられるように、各学級、各月の第3週(月～金曜日の間に1回以上)に「よいことカード」に記入する時間を設ける。

### 学級委員会

△代表委員会で決まった生活目標を意識して生活する児童はいたが、一過性の取組になってしまい、月が変わって生活目標が変わると、再びできなくなってしまう傾向があった。

⇒機会がある毎に、各学級担任から、学校生活の中でできていることとできていないことを振り返る時間を設ける。場合によっては、全校集会で、生徒指導主事から生活の様子について指導する。

## 取組の成果(効果)『キーワード 共感的な人間関係の育成』

### よいこと運動

○「よいことカード」に記入する機会を設けることで、友達のよいところを見つけ、認め合う姿が見られるようになってきた。

○児童玄関にある掲示板に目を向け、自分や友達のメッセージを探したり、「ぼくも載せてほしい。」と話したりする児童が増えてきた。

### 学級委員会

○学級代表や児童会役員が、責任を持って代表委員会に参加し、意見を出し合うことができていた。

○クラスによっては、学級代表が学級会の司会者になり、クラスの意見をまとめる姿が見られた。また、代表委員会で決定したことや全体に周知したいこと等を、クラスに伝える姿も見られた。

## 今後の展開『キーワード 活性化』

### よいこと運動

- ・「よいこと運動」を来年度も継続する予定。その際、マンネリ化を防ぐために、「カードの種類を変える」「よいことを紹介する放送回数を増やす」「全校集会などよいことを紹介する場を増やす」「道徳や特別活動全体を通して、カードへ記入する機会を増やす」等の取組を行っていく。

### 学級委員会

- ・定期的に行われる代表委員会だけではなく、臨時に代表委員会を開くことができることを全体に周知することで、子供達で学校のルールを創っていける雰囲気づくりをする。

## 他教科との関わり『キーワード 一般化』

- ・「特別の教科道徳」や「学級活動」のソーシャルスキルトレーニング等を利用して、よいことカードの紹介をしたり、書く活動を仕組んだりする。教師や児童が肯定的に評価することで、共感的な人間関係を育てるとともに、自己肯定感を高められるようにする。
- ・よいことカードを書くことが目的になるのではなく、最終的には、自然とよいことができるように、学校生活の中で、肯定的な評価をする等して、日常化を図る。